

令和5年度 磐田市スポーツ推進審議会 会議録

【日時】 令和6年3月14日（水）午後2時～午後3時20分

【会場】 磐田市スポーツ交流の里ゆめりあ球技場 会議室

【出席者】 8名

【欠席者】 5名

【事務局】 6名

1. 会長及び副会長の選任

会長に、磐田市スポーツ協会の会長、高橋一良氏を選任

副会長に、磐田市スポーツ推進委員会会長、酒井勇二氏を選任

2. 挨拶

3. 協議事項

(1) 磐田市スポーツ推進計画（中間見直し）について

(2) 令和5年度スポーツ推進事業の実績について

(3) 令和6年度スポーツ推進事業計画について

(4) 次期市民意識調査について

事務局から、説明。その後意見交換。発言の概要は以下のとおり。

事務局

資料「磐田市スポーツ推進計画（中間見直し）-概要版-」

「令和5年度スポーツ推進事業の実績、令和6年度スポーツ推進事業について」

「磐田市市民スポーツ意識調査」に沿って説明

委員

今回の市民意識調査のことについてですが、来年（令和7年）の3月まで行うということでしたが、前回のアンケートの結果を見ると、30代、40代の方が仕事や家事・育児が忙しいので、スポーツする時間が全くないという回答がありました。その方々は、スポーツの定義がよく分かってないのかなと感じています。家事や育児もスポーツに含むということ、会社勤めでも、駐車場に車を置いて働く場所まで歩く、階段で行くのも運動になります。そのようなこともスポーツだよということを理解してもらったうえでアンケートに答えてもらいたいと思います。

今回のアンケートは前回のアンケートをそのまま使うのでしょうか。

事務局

アンケートの内容については、見直しはしていきたいと思います。日頃のスポーツ・運動として、どこまで含めるのかということをつかりやすく記載していきたいと思います。

委員

前回のアンケートに回答しましたが、スポーツの定義を「※」で書くとか、育児や子育てもスポーツですよと少し記載するだけで変わってくると思います。

事務局

検討します。ありがとうございます。

委員

グラウンドゴルフ大会をやった時に参加者から「グラウンドゴルフってスポーツですか」と聞かれたことがあります。市としての位置付けとして、グラウンドゴルフも一般的にスポーツだということを明記してほしいです。

グラウンドゴルフは、高齢者がやるものというイメージだが、そうではなく子どもから大人までできるスポーツだと思います。1人でも、チームでも、家族でもできると思います。

先ほど、30代、40代のスポーツ実施率が低いと話がありましたが、家族づれがいっぱい訪れる公園などに道具を置いて、使えるようにすれば、気軽にグラウンドゴルフができ、スポーツをするきっかけ作りになると思います。

事務局

スポーツの定義を啓発して認知してもらうことが大事だと本課としても認識しております。ありがとうございました。

副委員長

スポーツ推進委員会の活動視点からですが、近年、「ボッチャ」や「モルック」の指導をしてほしいという依頼が多いです。

依頼があった小中学校、団体に対して出前講座という形でそういったパラスポーツ、ニュースポーツをたくさん紹介、指導しています。

特に、ボッチャやモルックは、気軽に手軽でルールが簡単です。ボッチャはパラの正式種目ですから、正確にやろうとすると難しいですが、レクリエーション的にやろうとすれば難易度が低くて、誰でも簡単にできます。実際、やる場所によってはボッチャのコートを狭くするなど工夫をして、どこでもできるようにしていますし、モルックは室内用のものを作り、屋内外問わずできるようにしています。

スポーツ推進委員会の課題は、地域とのつながりが薄れてしまっていることです。例えば、ある地区でスポーツ大会やイベントがある時に、その地域から推薦されたスポーツ推進委員が活動の中で得たノウハウを地域で発揮して地域の皆さんに還元する、グラウンドゴルフも始めたばかりの時も私たちが地域へ行って広めていくということで、地域の中でスポーツに関わる人を増やしていく、そういう使命があって活動してきました。ところが、今は地域から推薦して委員が出てくるということが少ないです。最近は公募で入ってくる委員がほとんどで、そうす

ると、地域とのつながりがなくなり、結果地域へ普及していく人たちは、誰が担っていくのかということが課題になってきます。

ボッチャとモルックも難しい競技ではないので、地域に普及してくれる人を育てていければと思っています。体験会などで参加者を集めて、そこでルールを覚えてもらって地域に広げていく。現在も体験会なんかやっていますが、現実には、その日だけ少し喜んでもらってそれで終わってしまい、継続的な運動に繋がらない。それを非常に感じていて、地域でスポーツを広げる方法が課題になっていると感じます。

委員

施策の中のトップレベルのスポーツを体感する機会の充実というのは非常にありがたいと思っています。本年度もジュビロの選手が本校に来て、交流事業をしてくれて子供たちの関心を高めるには非常にいい経験でした。選手の皆さんはこういった事業を通じて子供たちに夢を与えてくれているということを理解していただけるとありがたいと思います。今回来てくれた選手もすごく子供たちを交流してくれて、子供たちはジュビロがより好きになりました。そうするとジュビロを応援しようという、そういったところに繋がります。

もう一つ、子どもたちの運動体験の減少です。実際、20～30年ぐらい前は小学校にすごく足の速い子、ボールを飛ばす子がいましたが、今は地域から減ってきたかなと思います。学校でも工夫していますが、今の子供はゲームやスマホがということがあるのでなかなか難しいと思います。そこをうまくいかくぐって、体力向上を目指して行って欲しいと思います。

最後に、今流行っている「eスポーツ」があります。それをどう捉えていくかということも一つ課題だと思っています。

委員長

eスポーツやニュースポーツなど新たな広がりを見せています。磐田スポーツ協会も、従来の競技種目、地域のスポーツなどそういうことになんかがんじがらめなってはいけな、柔軟に対応していかなければいけないなと感じています。

副委員長

特定の場所に特定の時間行けばこういうスポーツができるよ、というのは、すごくいい取組だと感じています。スポーツをするには道具と場所の確保が必要で、ものすごい労力が要ります。特定の種目を特定の場所で一日やって、誰でも参加できる機会があると、自然とそこに行く人増えてくると思います。

「わくわくスポーツ教室」では、小学校3～4年生の児童に対して、レクレーションスポーツを年間8回やっていますが、内容はとても「ゆるい」です。ビシビシやるようなものじゃなく、意外とそういうものを親御さんも望んでいるという印象を持っています。子供たちが何となく遊びながら1時間程度身体を動かして帰るのですが、親御さんはこういうのをよしとしている印象です。

教室は、年中から小学4年までを対象にやっていて、5・6年生向けの教室がありません。5・6年生は、課外活動で陸上競技や水泳をやっていましたが、それがなくなって、スポーツをやる機会は体育の授業かスポーツ教室へ行くということしかなくなってしまいました。いろいろ

な影響が出ているという話は先生方からも耳にします。5.6年生で途切れてしまうことため、何か打開策がないかなと、今危機感を持っています。

委員長

子どもたちをこれからこんなふうにはスポーツに関わらせていきたいという学校の立場から意見はありますか。

委員

市の陸上大会とか水泳大会というのがなくなり、中学校の部活も、今回の資料に従って進んでいくとは思いますが、正直学校の中でスポーツに取り組む機会は、減少しています。

例えば、マラソンも授業の中で走りますが、マラソン大会を行っている学校も減っています。なわとびや一輪車など特徴的な活動を出そうということで活動を進めている学校もありますが、時間をかけてじっくりやるということは減っています。

今の時代は多様性とか、いかに豊かに生きると考えると、スポーツだけでなく芸術的なことや音楽的なところとか、その中で生活を豊かにしていきましょうという考え方があります。体の健康を保つためには運動が効果的であることは間違いないことだと思いますので、それは子どもたちの中には、すり刷り込ませていきたいと思います。なかなか時間や回数は減っているのが現実的なところですので、こういった受皿は非常に期待しているところであります。

委員

体育行事が減っている中、学校によっては伝統的に何かを残していくというのは大事なことだと思います。中学校部活のことで、学校以外の場所で様々なスポーツ団体や企業と連携して運動プログラムの開発、とありますが、受入れ体制は学校ではなく、民間に渡す体制ということで、本当に素晴らしいなと思いました。

以前から部活をなくしてという話の中で、テレビで掛川市は、中学校部活は廃止しましたというニュースがでましたが、現実、部活動を廃止するところまではいってないと思います。原因があると思いますが、自分の子供の時を思い出すと、クラブへ入るにはお金がかかったり、役員などをやらなくてはいけないということがなかなか大変に思うのかなと思います。そういう人ばかりではないと思うが、できる家庭はどんどん参加していけばいいと思います。

事務局

追加資料「SPO☆CUL IWATA事業推進計画」に沿って説明

委員

自分も部活動で育ってきた世代なので、この意向はイメージが付きません。ただ、小学校でこれまで課外活動として行われていたミニバスとかサッカーとか、水泳、陸上は、今は少年団、施設があるクラブで行うような形になってきたのかなと思います。中学校にはもう少しいろいろな種目があったり、文化的なものもあります。美術、音楽などそういったところの受皿についても今後検討が必要であると感じています。もう時代の流れでやるしかない現状となってい

る中、具体的な策が今すぐには思いつきませんが指導者の確保というのが1番の課題かなとは思っています。磐田市の場合は、ガイドラインを出してくれて、かなり宣伝をして、小学生から中学生までこのガイドラインを周知しております。その上で、お金の面だとか、選び方だとか、そういったところは非常に関心が高まっておりますので、情報発信というのをお願いしたいということ、やっぱり指導者の確保ということが喫緊の課題だなというふうには思っております。

事務局

来年、指導者をしてくれる人が20人程度、登録が既にあるようなことも聞いていて、6年度から10クラブぐらい、文化とスポーツで活動できるのではないかという話は教育委員会でも出ています。スタートはそれぐらいの感じで、徐々に広げていくイメージになると思います。

委員

地域部活動については、Jリーグでも議論されていて、各クラブの地域の状況の共有ということでは話題には上がっています。改革中で正解が分からない中ですが、プロの選手から直接指導を受けられる機会があればいいのではないのでしょうか。ただ、プロの選手なので指導、協力できる期間はオフシーズンになります。そこは課題ですがこのような機会なので共有させていただきます。

また一斉観戦事業は、Jリーグの中でもかなり話題となっている事業の一つで他チームからもヒアリングや視察に来ていただくことが多く、本当に注目度の高いものになっています。サッカー業界からではなく、他の競技のプロスポーツチームからも話を聞きたいという声もいただいています。そのぐらい小学生一斉観戦事業は、授業の中でプロの試合を見に行こうという皆さん真似できないような、そんな壮大な事業の一つになっていると思います。

委員

自治会は高齢化が進んでおりまして、私の地区でもコロナで拍車がかかり運動会がなくなってしまいました。地区の体育委員も選手を選ぶのがつらいと言っていて、やりたい人と、やりたくない人との比率に差が生まれ、やりたい人が少なくなってきたというのが自治会の中で動きです。現状、運動会を継続してやっている地区は少なくなる一方ですが、ポッチャみみたいなもの、あるいはそのほかの体育館でできるスポーツに切り替えた自治体もあります。そうすると参加者の年齢が変わってきたという話も聞きます。

委員

高齢者は健康第一ということで、スポーツというまではいかないけれど、いろんな健康体操を定期的にやっています。別件で、提案したいことが一つあります。新たな時代に対応した施策などの実施ということで、コロナ禍におけるスポーツ活動の確保とありますが、能登半島の地震のことがあって、私たちも他人事ではないなと思っていて、コロナ禍と自然災害におけるスポーツ活動の確保っていうのはどうでしょうか。災害で、エコノミークラス症候群で亡くなった方もいるということなので、1人でもできる体操を広めるのもいいと思います。そういう意味では磐田市と静岡産業大学で作ったパンフレットはすごくいいと思います。家事仕事を

しながらできる運動メニューってありますがこういったものをもっと広めてあげるといいと思います。

事務局

いろいろご意見ご発言頂きまして本当にありがとうございます。頂いたご提案については、計画見直しの参考とさせていただきます。特に計画の見直しにあたりアンケート調査を実施するため、アンケートの内容については、持ち帰って見直しをすぐかけたいと思いますし、今日頂いたそれぞれのご意見の中で、来年度以降の施策に取り入れられそうなものもございましたので、また新しいことをやっていきたいと思えます。よろしくお願ひします。